資料18

対象：市内小中学校教職員
回答数：１５
質問数：１
実施期間：令和５年１０月２５日～１１月６日

１．未来の世代のための生駒市の教育は、今後どのようにあるべきと考えますか？

1　教育を受ける側も教育する側も、余白の大切さに気づくべきだと思います。余白からチャレンジや創造が生まれます。

何かに追われることなく、自分自身の心の持ち方や、〈これから〉のことを考えられるような教育が、必要になると考えます。

2　学校(教師)、地域、家庭が本当の意味で方向性を共有し、子どもたちが様々な角度から学びを得られるような環境づくりが必要。

3　持続可能な教育であるべきだと考えます。

4　自律的で主体的な学ぶ子どもが育つ教育を実現する必要がある。
そのためには、教職員が子どもが主体的にまなぶ授業の研究や生徒理解のために時間を確保できる環境が必須。そのためには、ICT 機器等の活用を前提とした指導体制の整備、校務等の負担軽減に資する機器の整備が必要。

5　多様な子どもの実態に対応できるゆとりある教育の充実が必要

6　副担任制希望

7　これまで取り組んでくださってきているように、新しい教育課題に積極的に取り組んでいくべきだと思います。
ただ、現場の教員としては新しい教育課題が提起され、やるべきだとは分かりながら、手が届かない、という状況があると思います。教員が自己研修、校内・校外研修に前向きに取り組むことができる余白がほしいと願っています。
最近は何かの形での支援員さんが増えており、ありがたい面はあるものの、やはり授業の責任は授業者にあり、小学校においては教員一人当たりの担当授業時数、担当教科数に目を向けて取組を進めてほしいと願っています。担当教科数が少なければ、教材研究・授業準備の時間は大幅に減少するのではないかと思います。担当授業時数に加えて、担当教科数に目を向けながら、教員数を少しでも増やすことが、学校が抱える様々な課題（特別な支援を要する児童・不登校への対応・授業の質の向上など）に対応していくポイントになるように感じています。
現状の教科担任制は、教員の負担を分散する一つの手立てとして有効なのではないかと考えています。

8　生駒市の小学校教諭です。
ICTの発達や民間の学習ツールが充実していることに伴い、学校で学ぶ意義が問われています。そこで、あらためて学校での学びを明確にすることが必要だと思います。
私は、学校でしかできない学びは、「仲間とともにできる体験」だと考えます。学校に来れば、同級生だけでなく、たくさんの異年齢の仲間がいます。また、行事はもちろん、理科の実験であったり算数の量を測ったり、体育のボールや跳び箱をつかったりと体験ができるところが学校にしかない良さです。それらをさらに際立たせていくべきだと思います。

9　教育の機能を自己実現と社会貢献と捉えるならば、学校教育は、マクロの視点とミクロの視点が必要と考えます。１つは、グローバルな視点で物事を捉えられる力を子どもたちにつける教育で、もう１つは、生駒という地域に目を向けられる、地域活性化を考えられる力を子どもたちにつける教育です。はじめがマクロの視点の教育ですが、子どもたちが自己実現を図るとき、変化の激しい社会においては、今後、協働していく力がもっと必要になってくることが予想され、そして、協働の場は今よりももっと広い社会が舞台になると思われるからです。もう１つの教育はミクロの視点の教育ですが、子どもたちが自身が育ってきた環境に目を向け、身につけた力を地域の担い手としてどう生かせるのかを考えさせることも、教育の大切な目的の１つなのではないかと思います。そう考えると、現在の教育大綱も大筋では私の考えるビジョンと変わらないように思います。ただ、教育大綱をまとめるといった作業をしていく中で、この教育は一体、何を目的に行うのか。この教育を行うことでどういった成果が見込めるのかといったことをすぐにわかるようにすることが、市民一人一人に生駒市の教育を身近に感じてもらえることにつながるのではないかと思います。

10　自分にあった教育を、自分で選択し責任を持ってやり遂げる。そのために必要な、人、設備を充実させてください。

11　ESDの視点を取り入れた教育活動を展開していくことが、未来の世代を育てていく上で大切になってくることだと考えて、私は教員として働いています。これからの教育は、基礎基本の知識・学力についてはできて当たり前、しかし、それをどう活用していくか考えたり、試したりする力を育てる学校教育活動はなかなか見られない。※担任の考え方・専門分野によって、意図的に学年で展開したり、自学級で展開したりすることもあるだろうが、瞬間的であるため、系統的に指導していくことが生駒市教育全体を育てることにつながると思います。自分で考え、発信する経験が、「自分達の力でできたんだ」「次はこんなことできるんじゃないかな」という意欲を湧かせ、「学びたい」「吸収したい」「知りたい」という本来、子ども達の学びに必要なエネルギー源が増えていくと考えています。

12　・多様性、様々な対応性に富んでいる生き抜く力を身につける教育の充実。基礎学力、主体性、コミュニケーション力の３つが土台であると感じます。

・ネットスマホなどの情報モラル教育は、各校取り組みを推進しているところであるが、命の教育についてはまだばらつきがあるのではないか。自己肯定感を高めることはもちろんだが、自殺予防にもっと力を注ぐことが大切だと感じます。

・不登校に対する支援に手詰まり感を感じています。特に全欠の子どもに対して、義務教育が終わるタイミングから手薄になりがちです。アウトリーチが行き届くような体制づくり、全欠の子どもたちの自立支援の手段等の豊富さの向上が急務であると思います。

・教員の資質向上というと研修の充実となりがちですが、教職員の心の豊かさを育てるのはプライベートの充実も重要な要素、しかし現実は帰宅後も残務に追われたり、バタンキューとなってしまったりです。結局は勤務時間中に余裕がないことが原因の一つとなっています。業務改善はもちろん必須ですが、人員配置がもっとも効果的です。引き続き、人材確保と配置の程、よろしくお願いいたします。様々な人材サポートの充実と保障。

13　何事にも前向きな気持ちで、忍耐強く取り組むことができる人間の育成を大事にすること

14　教職員の人数を増やし、多様な状況にある生徒が学びを深められるように少人数編成のクラスにしていくべきである。その中で、性や命の教育、人権や福祉などこれから世の中で生きていくために必要な力をつけていく必要がある。また自己決定の場を増やし、自分たちが学校をつくっている感覚を身につけてほしい。例えば校則を見直すことや行事のルールなどを自分たちで決めていくなど、学校の主役が輝けるように自分たちのことを自分たちでつくりだす経験が必要である。それは将来民主主義の社会で生きていくために必要な力を身につける場となる。

15　教員の異動を市内で行うことを理由のいかんにかかわらず認めることなく、他郡市交流を積極的に進め、様々な郡市で経験を積んだ先生方を生駒市内に呼び込み活性化を図る。自分自身他市からの転勤で今までとは違った教育・指導方針に触れることで自分自身の今までのキャリアを見つめなおし、今までの経験のもとに「生駒市・所属校」の生徒のために何ができるか考えるきっかけをつかむことができたと感じている。様々な刺激が新たな生駒市の教育を生み出すきっかけになると確信している。